

令和4年度兵庫 DWAT 基礎研修基調講演等要旨

開催日: 令和4年7月1日

参加人数: 205 名

オンライン 163 名

会場受講 42 名

○基調講演「ほっとかへんネットの活動を活かした災害支援体制の整備について」

講師: Office SONOZAKI 代表 園崎 秀治

【講演要旨】

長期化する避難生活における災害関連死の増加に伴い、福祉支援の必要性が叫ばれるようになった。

自分たちが被災者となったときに、支援を受け入れる力「受援力」を持たなければ、被災地の中で一番の弱者である「福祉サービスを必要とする人々」にしわ寄せが行く、つまり受援力がないことによって被害が拡大することを心得なければならない。

日本の避難所は過酷な環境が多く、ハード面が整っていない現状がある。そこで、人の支援というソフト面において、DWAT が福祉の専門性を活かし、避難所の中の弱者と呼ばれる人たちをそれ以上悪化させないように支援する。ただし、避難所の運営は住民自治であるため、被災者がどうしたいかに寄り添う形の接し方が必要であることを意識しておかなければいけない。

支援者として、被災地を支援するときの3原則「被災者中心・地元主体・協働」を大事にしていきたい。まず、被災地中心とは「自分の専門知識を活かすことより、被災者が何を求めているかに軸を置くこと」。次に、地元主体とは「災害だけによらない複合的な課題はその地域の人しか解決できない、一過性の外部支援者が手を出してはいけない領域があるということ」を念頭に置いておくこと。最後に、協働とは「被災地での多種多様な課題を解決するために、さまざまな専門職の方と関わることになることから、お互いを知りあうことを平時からどれだけ行えるかということ」である。

被災地での引き継ぎの際も、これらのことを意識し、自分たちが行ったことだけでなく、被災者の情報、まわりの支援者の情報、地域のことなどさまざまな情報を引き継ぐことが大事になってくる。

今後の目標は、関係性を作ること、すなわち「チームビルディング」である。平時の活動として、①他の専門分野の人たちと交わる機会を作る、②チームリーダーを育成していく、③自分たちがどういうことを学びたいか自発的に発信する、この3つがある。さまざまな専門職から成り立っている「ほっとかへんネット」の関係を活かしてDWATの活動ができれば、全国で兵庫県が突出した一つの形を作っていける可能性があると感じている。

○グループワーク「避難所におけるDWATの活動について」

6人1グループで、グループワークを行いました。まずはグループ内で自己紹介をし、チームリーダーを選出後、「要配慮者とはどのような人か」についてグループで話し合っていました。そして、各グループで意見を集約し、チームリーダーが発表を行いました。さまざまな専門分野の視点からの発表が行われ、限られた時間の中、活発な議論が行われました。